

課題名	PONV 術中予防投与プロトコルの導入と薬剤師による介入が PONV 発生率へ及ぼす影響
承認番号	2023-15 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 薬剤部 氏名 佐藤 浩太郎
研究期間	(西暦) 2023 年 10 月 ~ (西暦) 2025 年 3 月
研究の意義・目的	術後悪心嘔吐 ( postoperative nausea and vomiting : PONV)は、周術期の患者満足度を下げる大きな要因となります。また、術後疼痛管理や経口摂取を妨げる原因となり、術後回復を遅らせる可能性があります。そのため、薬剤師が事前にリスク因子を抽出して麻酔科医師に共有し、PONV 予防目的の薬剤の投与の提案を行うプロトコル (手順) を開始しています。本研究では、PONV 予防投与の実施率や PONV 発生率を検証することで、周術期における薬剤師の介入が有用に働いているかを検証します。
研究の方法 (対象期間含む)	2022 年 7 月から 2023 年 2 月までの期間に当院 外科および産婦人科において全身麻酔下で手術 (緊急手術は除きます) をされた患者が対象となります。これらの患者さんの PONV の発生、薬剤師の介入、予防投与の措置の有無を電子カルテ情報より抽出します。これらの情報を使用し、薬剤師が介入していない期間 (2022 年 7 月~2022 年 9 月) と介入後の期間 (2022 年 10 月~2023 年 3 月) において、薬剤師介入の有無による予防投与実施率や PONV 発生率の比較と解析を後向き観察研究で行います。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	カルテより抽出した情報は本研究のみに使用し、学会発表等を行う際には個人情報保護のために、患者さんの氏名、生年月日、カルテ番号など個人を特定できる情報は公開しません。使用するデータは、パスワードをかけて個人が特定できる情報と切り離して使用します。
利用又は提供する 試料・情報の項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者背景 (年齢、性別、体重、病歴、飲酒・喫煙歴、アレルギー歴)</li> <li>・治療内容 (診療科、手術方式、手術時間、投与薬剤、薬剤師介入の有無)</li> <li>・術後経過 (PONV、副作用・術後合併症の有無、投与薬剤、在院日数)</li> <li>・臨床検査値</li> </ul>
試料・情報を 利用する者の範囲	横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部 佐藤 浩太郎および薬剤部の研究分担者
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部 佐藤 浩太郎
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 薬剤部 氏名 佐藤 浩太郎 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101